

第2章 周辺の景観資源調査

地域らしい景観の形成を考える際に留意すべき事項は地域によって異なるため、計画地の周辺に身近な自然的景観資源や歴史的・文化的景観資源等の特徴的なものがあれば把握しましょう。

景観デザインを考える上で、計画地の周辺の景観特性やこれらの身近な景観資源を活用することは非常に重要です。

そのため、計画地の周辺のまち歩き調査（半径150m～200mの範囲内）を行い、身近な景観資源を把握しましょう。例えば、以下のようなものがないか探してみましょう。

※景観資源の種類

景観資源の種類	具体的な内容（例）
自然的景観資源	・まとまった里山・樹林地　・樹姿・樹勢の優れた樹木 ・一団の優良な農地（水田地・茶畑・サツキ畑など） ・見晴らしの良い場所　・河川・水路・ため池等の水辺
歴史的・文化的景観資源	・古くからの既存集落　・古くからある建築物（民家） ・寺社・仏閣　・古民家　・歴史を感じさせる道標やほこら ・地域の祭り・伝統行事・イベント　・季節の風物詩　など
都市的景観資源	・地区計画などによる計画的な住宅開発団地 ・商店街　・大規模商業施設　・大規模工業施設 ・公園緑地　・街路樹　・官公庁　・文化施設　・教育施設